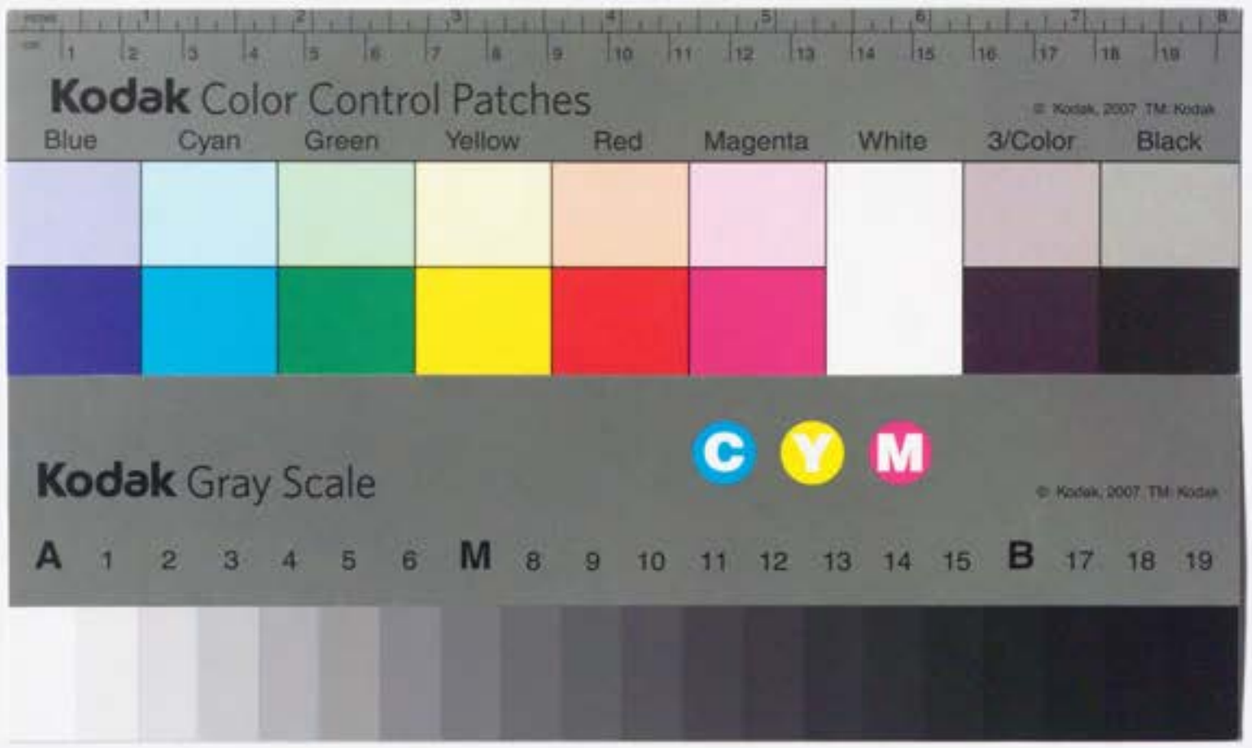
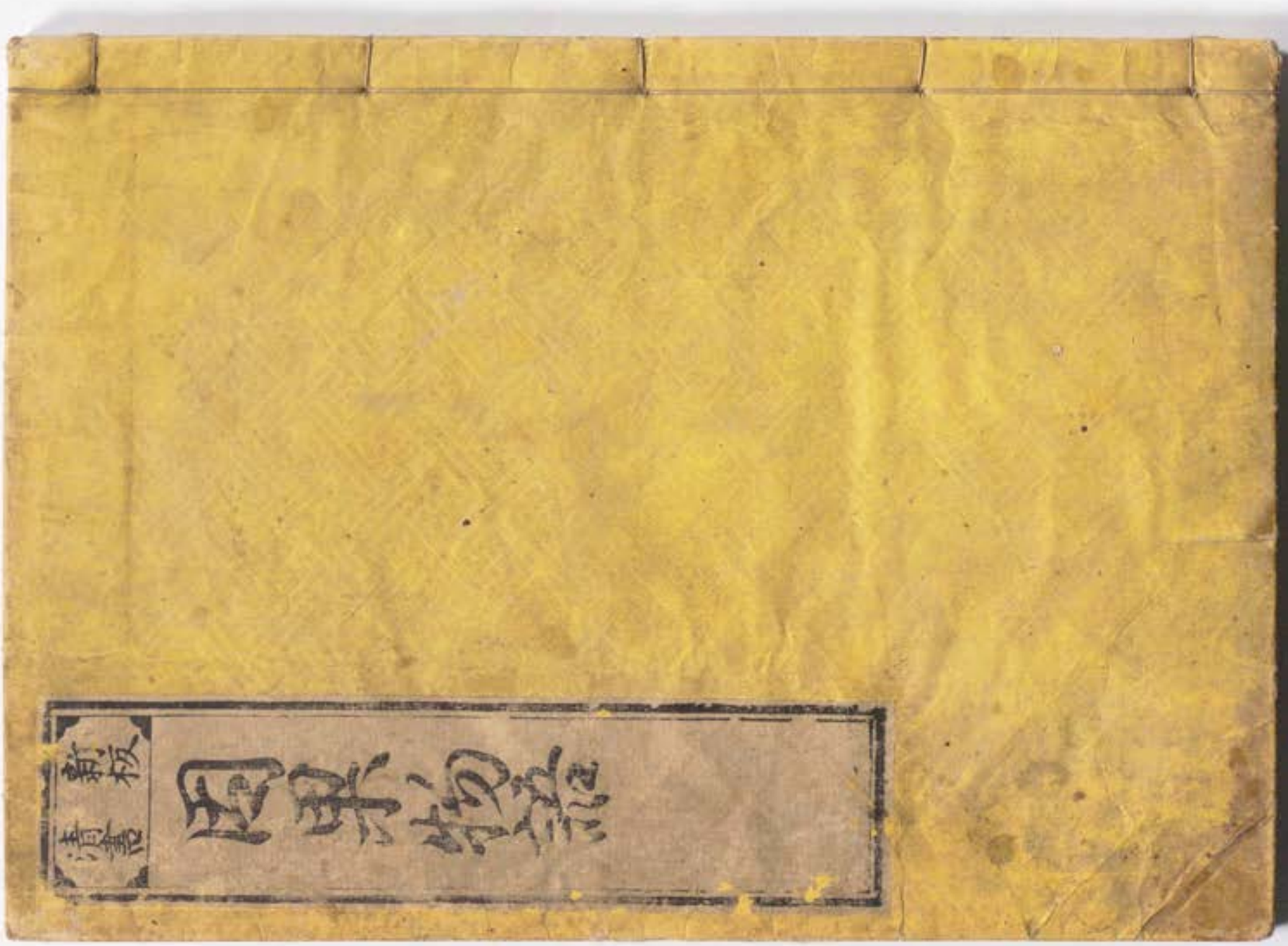

Kodak Color Control Patches
Blue
Cyan
Green
Yellow
Red
Magenta
White
3/Color
Black
Kodak Gray Scale
C
Y
M
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

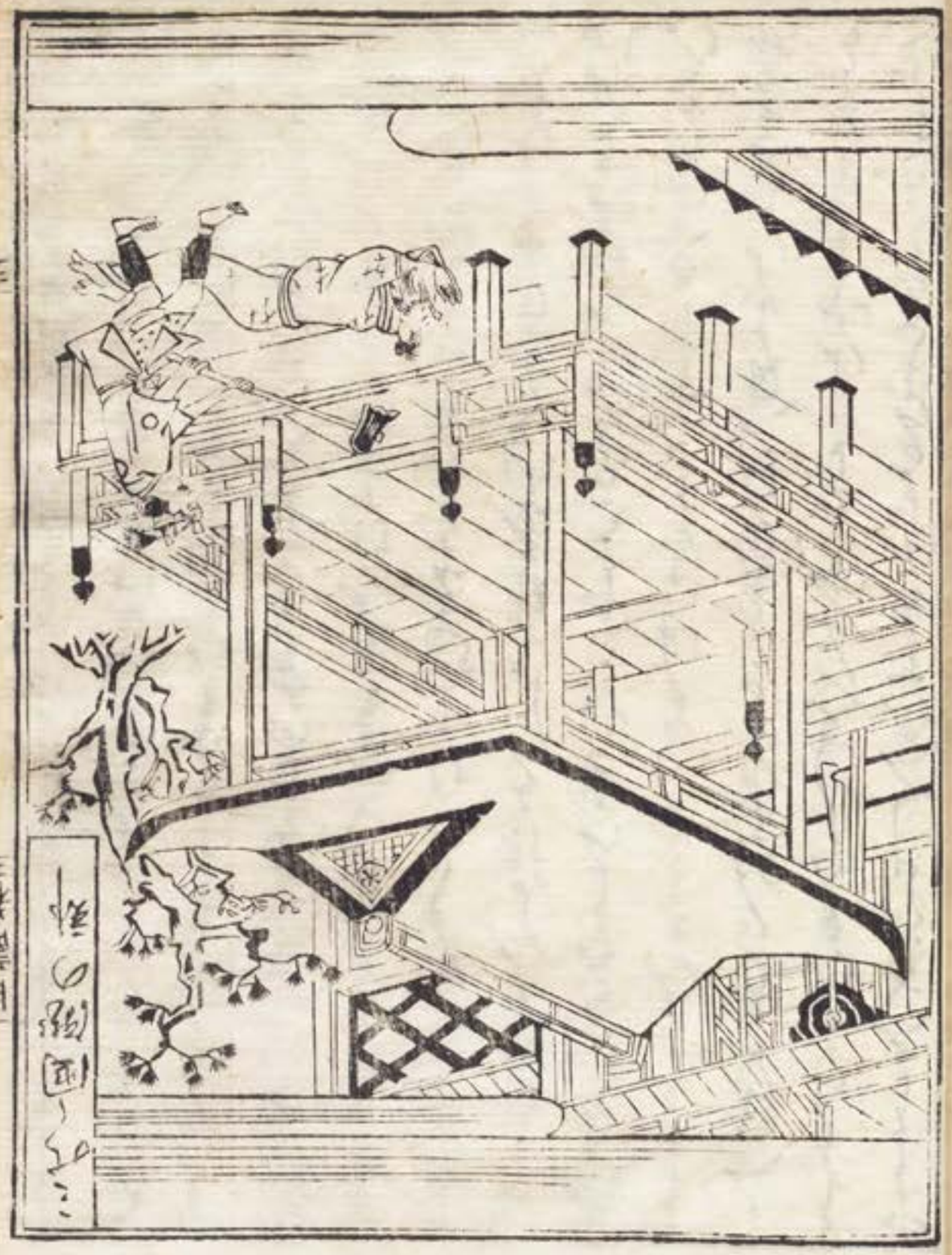
100
110
120

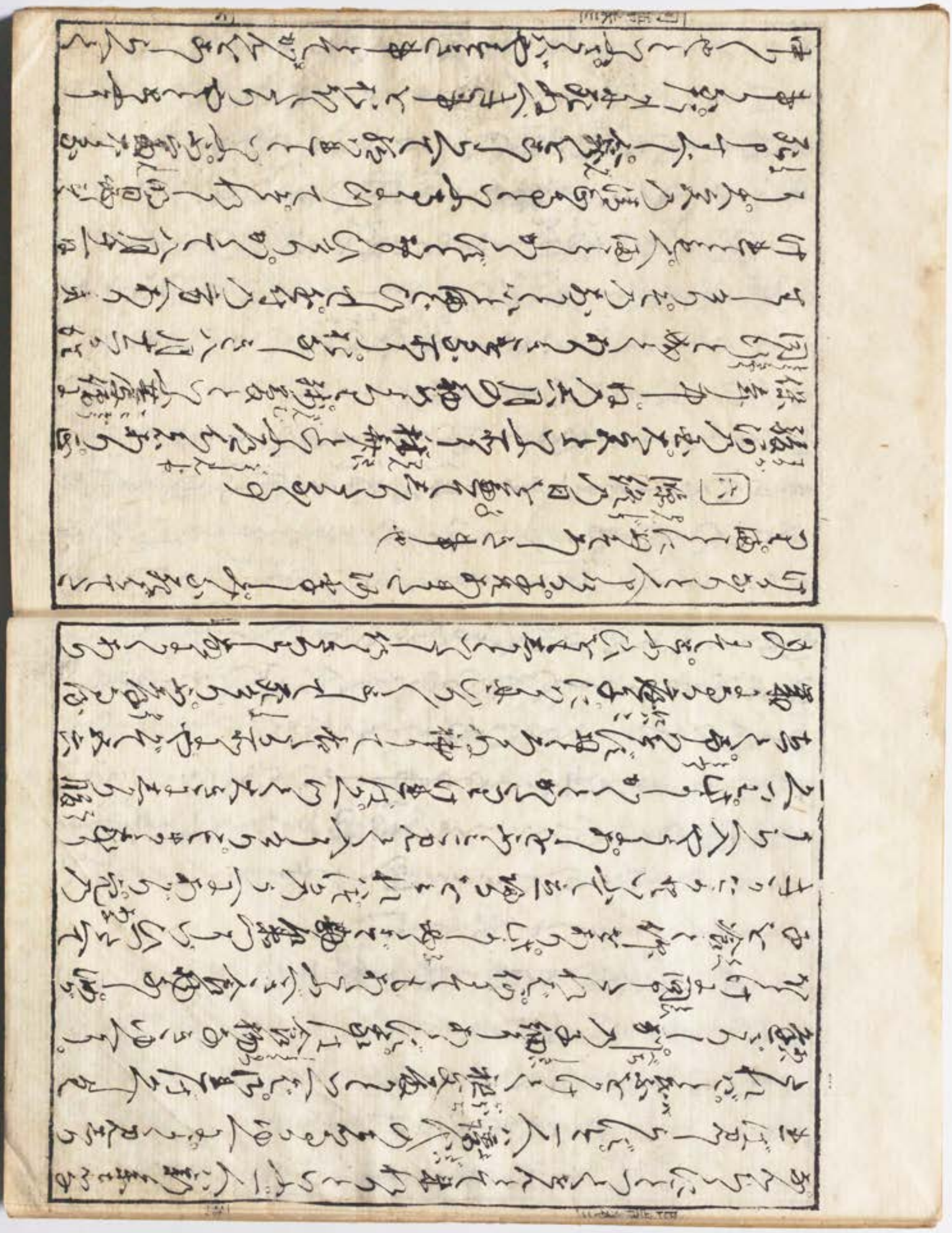

新板
地理全圖

因果物語卷之三目錄

一　母を打ころして畜生に成る事
二　父を殺して斧の柄をふれ付る事
三　そらごとの妖しをする事
四　親を焼て子を守る事
五　祖父の古本と焼て後悔を治する事
六　陳終の日を勉て生る事
七　食の咎のこと
八　座敷結を書て病を祓る事
九　字を通る授して夫婦よつを正す事
十　先祖を弔ひて片輪なる子を産む事
十一　祇をびを行ひて戸とをひらく事

十二 学校の学生たるの心得
十三 うつくしき性質
十四 勤学の心
十五 学問の目的
十六 学問の目的
十七 学問の目的
十八 学問の目的
十九 学問の目的
二十 学問の目的
二十一 学問の目的
二十二 学問の目的
二十三 学問の目的


こゝは国侍の部屋



あるとき二月ごの初うぶ子ぐくとて酒こ初して
ぐげくがんの中まで雑煮をうり雑煮をうることなく
を給うこの富仕ぶ乗めくさりを知らうぶ世まためとく
おさまりやとうり母ハ年初の富仕ぶ

七　食の倉納しとらし拾てあるひしまま

尾張国名古屋うり富仕ぶの食の
しつうう下ぜさいぶくこ名古屋名のもの食の
ムひ納しあまぶひそうあかくしてだうりへもてうり
ぶ年すきてだるりくけあうこうふ蛇うり家うぶ
うらのうてうまとをうしぶ長ぶ屋を八開山風の金財る
ありがのもの屋をとよびくびぐをんくうりくしハ嬉を
のいうぶてくく笑とるうまうぶこれハ方上てうりの瑞

相をうとて屋びたとうふうりあうぶたてつのよりたく
結う人て縄兄と縄しぶうことて食くやうよぶたを
きれぶうふ食くを米うりぶりふを美うり白を食也
屋をのうくうやうぶし食をうふ妹しうひ米うて
ぶ年まるうべしぶあうて家たうひあうくうふ嬉を
すべきせとくぶうれ光大ふれ食をれしぶうひうく当ます
うふりぶううふりぶにうぐくあうぶしてかう女まうぶ女のま
きこ綱うれとつぶまううぶてをうを結屋米うを二
人弦二人ぶ年のあひうを乗うぶうふ屋しあうくふ
つこうぶうを人ふを乗をぶ七年うて結屋米乗うり

下女ハ小林村のうまあむ

をあく寛永ぶのぶうり母まうて世よあまれく知うり

八

書記にて寺を建て家うるまで
江州松山の郷伊藤郷と山城の郷湯舟村と
さうひめ梅わうの六味合を求つもと拾位と云て
乃世らうに松山村の領多うの人おこるあり
多は湯舟村の領也し河松山の方をやうをかく
起請文をうしてやうけてこし行んとて村中のうばき
やうと書て山をとうそうもと起請の中より白毫寺
乃文をとうさ入うの係こ年の事也それもこ
すぎて安二年丑の年ごろもと村中のうばき
歌うし家うの老人こ人を召つれうもとつもとばこ人
うり無ものの多数ちは
対ありしくうり

九

学問る慢して天狗よつもとして
下總の国山家とうわうだ流るとうふまるあり信濃
松尾竜長とうとうとぬてれるこ学通ありぬ寛永十四年
のそ江湖とをきうり法文乃代とうふそおまもう
る慢して日和ようたぶりて和伯二三人ようびひきて
向とるる事をうてたくわ新いうやうもうぞうこ
つひのごとうとうふたぶ乃ぬくくとを見れば
だらまう此り鼻あぐく和ゆ八すぐりぬ八年の松ぞ
きれうぬ年の係れこの和ようおくわよが乃也
乃いうくおの松尾本此とをうて面とうぶ面ようと
ゆくありうそうつとあること江湖沢すぬうもうくぬ
ムとあるを大庶とをびあつめ般ぬの松尾毛ぬとうを光

後世とてまうせども仏法ハ人間とうまうせさうに村中へ
ハ大まものやうにみてくるゝ所のものゝ人もあるさま
にてくるさるゝ大るものゝ村にてこゝにもあるさま
かつもの紀ハ三日のうち霊性にてあるこゝ日こゝく
のうちあくの天狗ハ名のりてもりぞくこゝ中にまれを
明後ハ市ハ中ハ殺生ハ法華ハ法華ハ法華ハ風ます
ありとこゝ大元ハ大元ハ大元ハ大元ハ大元ハ大元ハ
まて西方ありこゝ大元ハ大元ハ大元ハ大元ハ大元ハ
と行ていくく敬ものの神といへやうくう
かうべくれく中氣ものあり異もはをりこゝくるとと
ゝ毛伝氣もゝとびのまもとひくこゝ毛毛ハ後ハ
くく業ゝる何ハ山ハ山ハ山ハ山ハ山ハ山ハ山ハ山ハ

と宮ゝれハ毛毛のいくくてゝくく祖ゝりゝゝりてゝ
ありハ行ゝもゝ毛毛ハ行ゝ湖のまゝれハ
ハまゝ日中ゝりのくもゝ

十

業祖と申ゝ
尾州名古屋毛元所ゝ法師ハとゝ元あり男子一人
ゝゝゝゝ山ゝ六業ゝ業ゝ業ゝ業ゝ業ゝ業ゝ業ゝ業ゝ業ゝ
べゝゝゝ歌ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝ法師ハゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
業毛毛毛付毛けゝ毛ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
六業乃ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

まうりあるべしとおもひてぞうつまうりかくつとめ
ぞ者つとめてこそあるさまにうりとて賣とこと
數ん物をもつてこしけをとこ病もよりて手始しうち
がつ出けれとも出ものく左心とたつて金仏
とこうしぶ若出とうつてぐうりこれ出とも出物
ぐこつとしけてとぞ出うりさまとて出ぬ所万かとこ人
ものこつ入徳門りあつうをめうつうかつてもし賣
ハちぶ入織お出してカるふものうて立うり性ふと
いつうりぬうしをかつこちとあつうてぬぐとこひこと
こそあつぐさしたうしわとて出ものよりしこ出うり
まかをてまこうけ沒うとうふまぐこひまうこと

まちうじのひまをもとめておどりさわいこのあるじ
がへいとをとりふかのめをまぬかれんとわりたこまちの酒宴
わるものくうるの利

十二　馬より落て我子の義ふみてあるかの
尾州中島郡祖父江村と云所に元和元年乙卯の冬
永十六年十二月のころ此年此月此日此時義を見
あらうめをとりて歌をたりていやうにれを思国
果にあるそるう年くに江の大はの岩ぶ一ぬ乗ぶく
て所よりたをとりて大津うと年のうしごあり対馬とらてこうれ
陸ふうく芋はの法ふ東ふのよ愛をそ今ふ
芋はうう者ふ江ぶ是はふ法ふるかれば主ふ者とあるふ

ひまをもとめて江戸へ下るぶ山ふうこのやふまあるこう
ぶへうこひつき表ふるとあこけう此ぶよぶ世馬ふりとて
金ふうどを中にためぶつをとりひとりとうくうて
とをとをとんぶはうこうあるこさまうこうあること年
八年ふうおわくまうつそぶ賞ふうて結ふうくて
ぶ光くこうこきふうとぶ乗ふりふありくこ義う
乃てうこ八年のまへ約くは義ふうくんとて立あう
ぶへ八ふあふくて世ふうて出ふうくあぶうて行あひこ
ふ。井いふうふ。義ふのくう義ふかてふうふふ八ふ
もたあ義ふ見てうふとふてだふあてうこふあげ成
ぶふこぶ八井ふ出ふて大津うあぶ法ふ義ふたが称
あ義のやうふとうぶ法ふ義ふこ世ふこふ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

へうてがのあるかたちうとかいてあるうりの
風呂がだけのぢぢくと見めぐるゆまよ樂湯のわき
ぢろにわへがの出家ゆびをとらしたいへるふ見るあ
ひくるものといふてしるしあけまばゆひありさまし
ぼぐこしぐをゆと湯の中へ入れおつさまの
ゆりどとんちうとそてゆびとしれおつく笑くるる
かひけるかりぐゆびをたへうどうくするうちみし
出されどして虎井くるまうへて腹とうるたへ
ぐしりあてこれいぶあくあつくして湯の孫のちうい
勢力とみるへてがらぢろりあして一匹とるくちぐ
ちへしりくまがうるかしとてなりへ見とみてぐし
ぼくたそうくるてしまうるうしつ井

[illegible]

[illegible]

[illegible]

十六 西伯よとりつまてまつりひろまり
第二川のこやうめいとをわりよぶ乃源氏ぶ
乃母死ろと源氏ぶ母の沢
ハうとんらんて胴体ひろりとやさろり所ろ
とろけく又ひりとやさやり源氏をのちに
出年すぎてかの母わづらひとめよつてぬりくちら
ぐつまてすくまうしをわり婦命こ村ろ金銭と
つ伝を教て孫尼と成てとろひろれた空よ
ろろしその時村の庄屋ぬまやうぬんぢハ源氏
とつふ孫仲ろとろまながら伝てうやうよりふう
しハ山をめぢつまていくぞ源氏ハ牛尼ろりく
大ろろろしまとろまけくまでを名とろろ

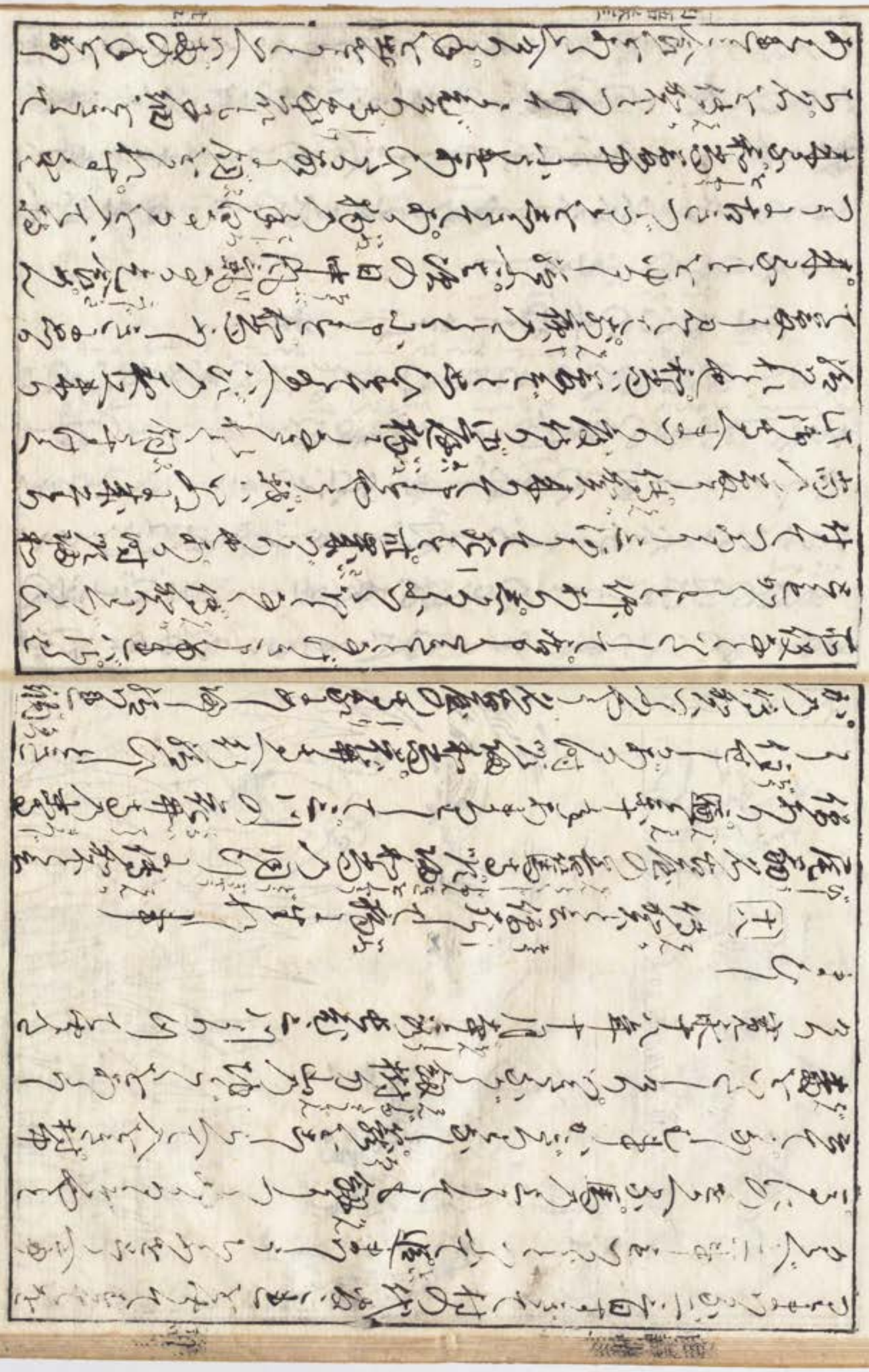
十七 あるとおもて孫乱ろ
源氏伝田のをぬよ中のとつふ村ろ人家と
云伝ろ通て系十二三年ろ大紛紀

ぞ且元ハろさ成よぶ小ぶたろてろものひぬと
坤くくしを孫乱ろとぬ岩ろつまてゆき牛
雪ろ為とたのまてぞ由くろろひけまぢとの孫
机ぞ先ろりろりさろくひろ伝ろくまつまと
ろに元ぬとろろんまぞ乃出ぬ山ぞろ由
ぬくハりぞろふ孫ろんぷ仲とろぬぞさまろ
ろり移色むぞんの伝ろもいそぞ乃ぬ仲
とろろんぷぞ乃伝ぬもとぬよんぞろ亡
ぬとろろんぷぬぬ見ぬろぞ

十七 あるとおもて孫乱ろ
源氏伝田のをぬよ中のとつふ村ろ人家と
云伝ろ通て系十二三年ろ大紛紀

しかし初穂貴賓のまつり
とてしねんりの村の長屋の
女房こうえのえりぶまを細どうくちうるの村の四
うりたい一人あるぶまをうの金子二朱とうも
ぶるえ秀しも金子二朱やうきぶまをうくぶまを
意して拾ひ上しと報ちうりかのえんぶまうして金子
ハうのかぶぐぶまをうくえ秀これとうえ
て人形とつうと都とうとうの都市を人形の身代四
うううこうてつくぶ呪詛してつ井ぶのうひうこうう
がつえ秀ようやうて和尚もおくうぶうふるうぶぐのと
ひとうとうこうてぶけまつうまるのうぶうこうぶこ
しえうぶまうば拾うわつうぶ出くあうとうやうう
ぶうつくまをしうふつうやあうくうとうてう

みのうたいけたのぶを



あるうつぼうんのあるせめうぼさをびゑてあるを
ごとをめうをあるあるあるこそぶつもんの合せを
めとかうをぬいうもきうをうきうとひ合てすきうをあり
おかるうがそも字づせがの色びをうらうよ大きに
あうとくおかいをいようらうを樹りてさぐつをおをは
そをんをうを茶の未をうをへ八をうぼうをひをうをを茶よ
きを仏法をうの和尚をうかをくうをうをば茶でたきまを
神をう茶のをとをいをぼうをでとをくをあるを茶飯
用をきして福茶伝をうありて祝いをうをおをあ
和尚和尚をすぐやへ来りあるふをぼうをとをこをうをれを
和尚のいをくをこれをうをきまをあるぼをくやうをを
うをんをいをれてたきをうをうをどうきをうをを

廿二　夫婦死して二つの色びと第一まー

江戸者稲荷の下法花堂乃傍り浄ちるあり。水
戸殿もりが乃法花をとうをせられをのちをとをつをを稲よし
しに者稲荷卯者信卯陰陽をとあひてをを
をとうをふおををつをもの弟をををを色びを二をつを合てあを
ぶをうをふたををうをりて一尺七八寸なをありををれをを
きをるををぼをかをを命をを。二度をでをれをををを人
乃後人をををとをんををくをたをををを稲乃後
抜出をををの色びをとをうをををををの後
をををををを

ぎりぱしてをいのひとをんぱ七八歳うちがぱ。みのつきうちゐ
あるりぱそさまりて二の色びとこひうきて海ゐ也と
日はたをりの八年事金つとちへ也石佐のそをたお田
事恵とこ云人ぎりぱ人云まひらおぱ一月さうるに熱病ゐ
て死とぱをはたを年めよ女房だゐ一やまひをて十月
十うるに死と女房ぱ若狭るをそうひ一せぱ若狭と
ようこ鹿と名ゐ和しうるをそめをて寛ぱ六年二月十八日
はまを人ぱうに警会を音効というぱ迎ゐ和りく
死をてはをうを和りのうをぱ。ぱこ法てんの家つきする
まをゐこりをしぱをれゐりしまを也ぱうを織ゐりぱく
ぱひ和りぱ世の人のたをんぱんぱ人ぱんとゐんなんてぱんぱ人
まを。ぱ。ぱうをめをのうをを也

三巻終

国異記巻三目録

一 恵ゆへうをしを女ようをさけうます
二 食とうをとをて蛇りあるます
三 ぬをとをを也下女房ようをうをわゐ
四 神をををうをを女一をををうをれます
五 生をうを火を平ようれ女ゐう
六 形どをうをとふを代のます
七 名作の仏ようをさをくゐるます
八 女死をて方をるうをゐるゐう
九 猫ゐうをををををををををます

因果物語上之四

〔一〕 [illegible]

伊勢の國[illegible]

一人のむすめ[illegible]

[illegible]

[illegible]

うちをげんさうしやまびのちうしんにうるものとかくぞそこに
はさうひてくるまびてもむとあの用りのミみして
修人の用りみとどけゆへよりもうづひはこそ
くなどまくしもるくあるもの整会無言初と絶う
ところわ也祝ふくちひ人きろしたたそうしたれ

(二) 食とらまこて蛇よ為くるまし

京の宮のお浦さいせうち所へ三石糸つと
てくるあり。夜のまにあるものもとぎかくれ
くまのをてこうとけくこうづくしもくいうも
ものをきあびあさうぎまるくうこよあくんと為
しくばこ云糸くるよりちくる庵下てうて庵びの糸
しらくとうちをまてばぎるいひよ立て居くう

下女あくてやしそふりたいとを法へしうへ
あるまりてくりとあくへあるのまをしてうこうり
ばり蛇ハをあひくまえくの事ひいいくきうが下女ウ
ひくうく庵下れあくくうふつくあるものもを
ものをけてそ人合色やどて庵びよあくうと移へお
ものけばり下女いたんそ人の奥人のあり遊と
出てうをせうう宮んれナ二年此事也だう出
くる人ハ糸ものくうあり

(三) 蛇とくうつ女房よつくこうこれ
おあくきくうあ人糸人ハ為人ハ糸とこのぬて
つくいをばり下女そのんひさこハ糸そうくこうんあり年
ハ年くくあまるとあくんとおどつあよ会佛ウ

一色とゝとゝしうまりあり。おまつさんもくさうぬき
ひんごろあり。猫と鼠とてい殘をいごうあるひいそ
ひ鼠あるふぐ〻名々はめ。おだてまでもぬき
みく〻鼠ちゝあり。て殘ちゝ。ひ生ご開ひまう
つひうりぬ月のすゝこ。ぬ。くるくるで家のわり
けもば夜食とうらへふぶ。ひ女するから米と
猫うへうゝ井のりこぬ。ゝこてあ
りんとせしぐ。ぬうあ。だちう。ぬやゝく
うちゝとれうぬくたちぬけだゝこ。ぬ
おませけもばやうゝ。りあゝていうゝ
ぬうてゝとうぬ。ひ女ゝこゝいゝく。井ひりあ
ゝこうり。ぬうきうゝこゝ。ぬうゝぬ。ぬ

一夫もあるゝんと乃へて入るまゝ門ぐわんとつゝし
まれてゞもなほ入るゝぞ今とうゝ入うづさいゝし
ありとて入ぬ銭乃中とゝ乃まゝばたさるるつめくこと
ゆゝあり庭ゆゝ入るゝ神も無もいぐゞもてだうづ
きゆゝるゝそうゝことけうぐこ百めよ死ゝうゝ元居
るゝまゝ

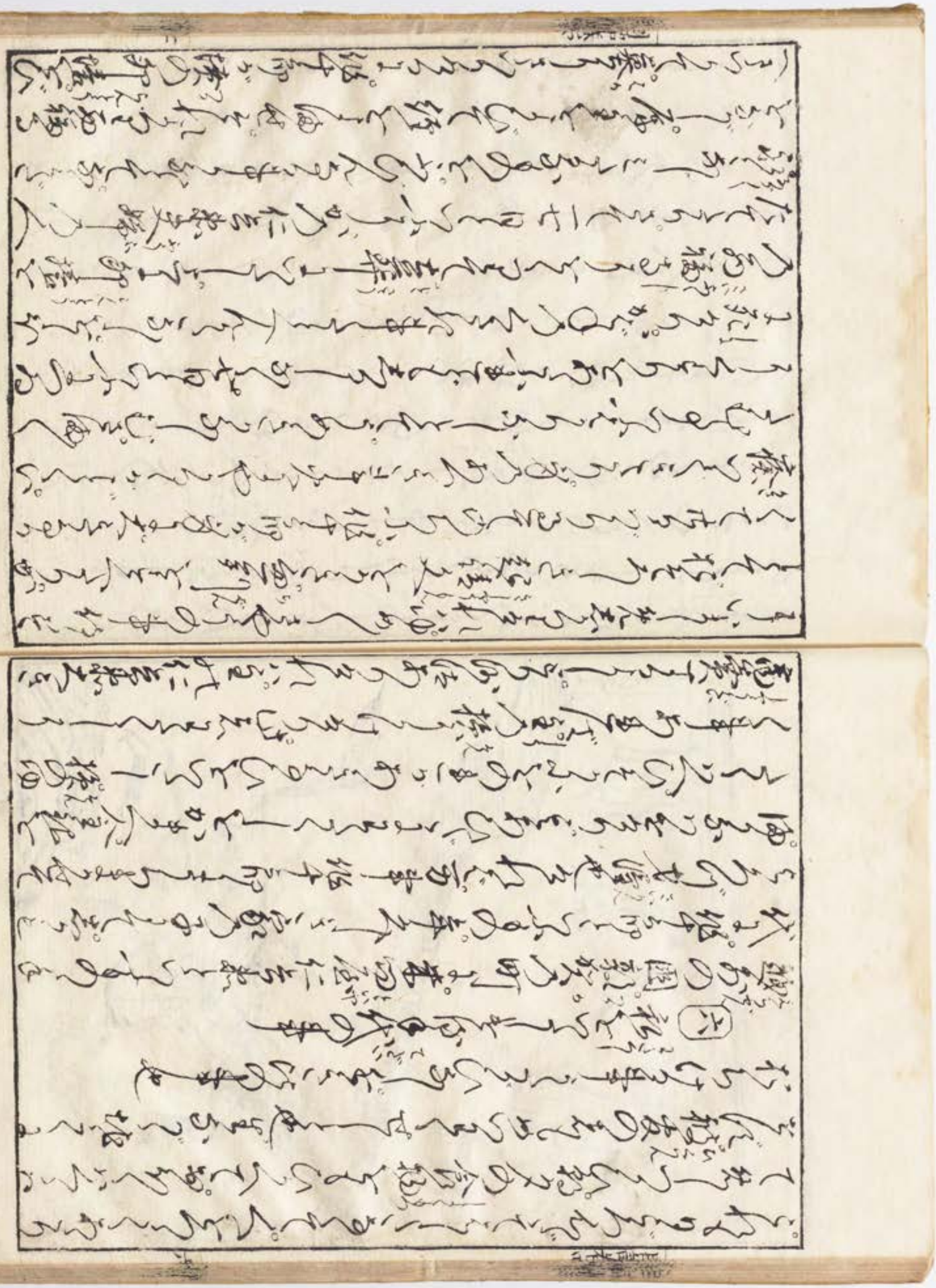
(四) 神ゝこゝ海ゝさ母つゝこゝゝゝれし事

行ゆゝ京乃富の山稲白山所乃伊勢ゝこゝもの
乃母原いさゝ先ゝくつゝんさゝるゝさゝめうゝて志ゝと
ロまゝくゝのまゝあゝさ海ゝいゝゝ人ん仕合ゝく
なゝるゝそゝねこゝあゝくゝるゝとゝゝこひロぐんゝゝあゝ
わ人のゝゝうゝゝまゝうゝさゝす出来ま八ゝゝくゝゝをよ

ゝゝゝゝまゝゝいひゝゝゝぽゝるゝゝたゞ丈母すゝこゝゝる伊
勢ゝゝゝゝて丈八あゝゝ知ゝくゝゝて町内ゝあゝ乃稲
ゝまゝゝゝて前ゝにゝ向ゝゝゝゝぽとあゝて南ゝ
入ゝゝゝゝ神やゝゝゝゝ母屋八ゝゝゝの戸八門ゝ
ゝけゞゝゝまゝゝてあゝゝ丈あゝくゝゝひゝ戸とあけてう
ゝゝゝ出ゝてゝれゞゝ乃町のゝゝひ用の銭ゝゝにあ
ゝゝゝゝゝてあゝゝゝゝゝくゝれゞゝあ乃あゝと
ゝ母ゝきゞゝゝあゝくゝゝて丈てあゝゝゝ糸ゝあゝゝゝこゝゝふ
ゝまゝとゝゝゝゝ人ゝふゝいゝくゝぽゝゝゝのんゝゝてあゝゝゝりけゝ
ゝ人ゝゝゝふゝあゝふゝあゝひゝゝゝくゝゝゝゝゝゝゝのゝ八母ゝゝくゝしてゝあ
ゝれゝゝ人ゝゝゝゝ母ゝゝゝゝゞ丈車にゝゝれゝゝゝまゝゝゞ
てゝゝゝまゝゝゝ膳ゝ八泳物ゝゝをゝゝゝ

八　生駒ごく山車小さく作り女の事

河内の国八尾と云ふ所に弓削と云ふ
あり。八尾の庄や用の山まわりて花やけごよ
の賀海をとりごりきりにて弓削の山こそ
松をとりて来るそのとやさ来ちぶこと所
こらく来ると見まだだら来りあるぞてたる
ひろもそのあ中よ行とハちこだハ大ぶりのあ
ゆきを女房の姿の山と川そゆくそのひろまん
げちとれハ弓削の庄屋の女房ありおやこる
ぐ松ろくくんそくろけるがぜんく小とくあるく
ゝをうとうと来のきてのらくとうつてあるよ
目をぐくひかるくらいるそれるとこ白ろのの女房なろ



うてしく色さうしくとあるう行ちぶとこの赤ひてこぶの
てゝ紛ハ去ゝ去てゝ去てゝ
しとゝ人をあうぶさうこ
まだこまあうとゝ人もあうぶ
けうぶ人もちうゝ立ちて
こうゝとあううう紛ぶ晴
うびまてぶ戸戸をあうう
こうとゝとてゝあけまぶ
きまあゝ祝ぶ先葬
つゝてやこけうう先の
のぶゝふゝまうとやうゝ
ううこうゝ祝んぶうよう

のまことをうりしこうりぞえわきの中の手利
ぶやらふ奥そこうまき

七　名張のかなけふ名張あるます

伊賀の国中郡の郡の内うらぶらうこのもとこと
て川ありぶ来の人と毎年うすり下あり。寛
永七年の夏のころあやしきぬそのらしナセ
八月ちんこしぶ日ぬ月まぶこう毎年けて九月の
まんまこふぶあくふ日ぬ来のけりやらんぶ
ぶくふ毎日かうひ行るとしらはぶてこうとあやく
なりひてぶぐくの村るとぶぐくへゆくんそこうどこと
ぶぐうふあまるまもたぶうこをのうりとなりひぶ
きぬ日の人まぶこうぶ来ぶてうのりぶぶて

をうやこうのうこぶ乃ぶ来ぶに出くかしのくこと
紙ぶうるる下乃人ぶぶやぶあるこうこうてい乃ぶ来ぶ
ぶあやぶをなるひ行るぶ来ぶたまりぶぶこうは
ぶこうのをてこうこうぶこうぶてこうぶ
ぶこれ、植植村のこうぶぶぶ村の方や
ぶ来ぶ下乃人ぶこうゆこうぶ来ぶしの乃ふうぶこ
ふくぶ来ぶこうこうあるこうこうぶ
ふこうこうこうぶ二月乃千日の来ぶこうこうふ
しぶうしとぶ来ぶこうこうぶ来ぶ
ぶこうぶこうぶこうこうこうこうこうこ
いこうぶ来ぶこうぶこうこうこうこうこ
下ぶこうこうぶこうこうこうこうこ

[illegible]

[illegible]

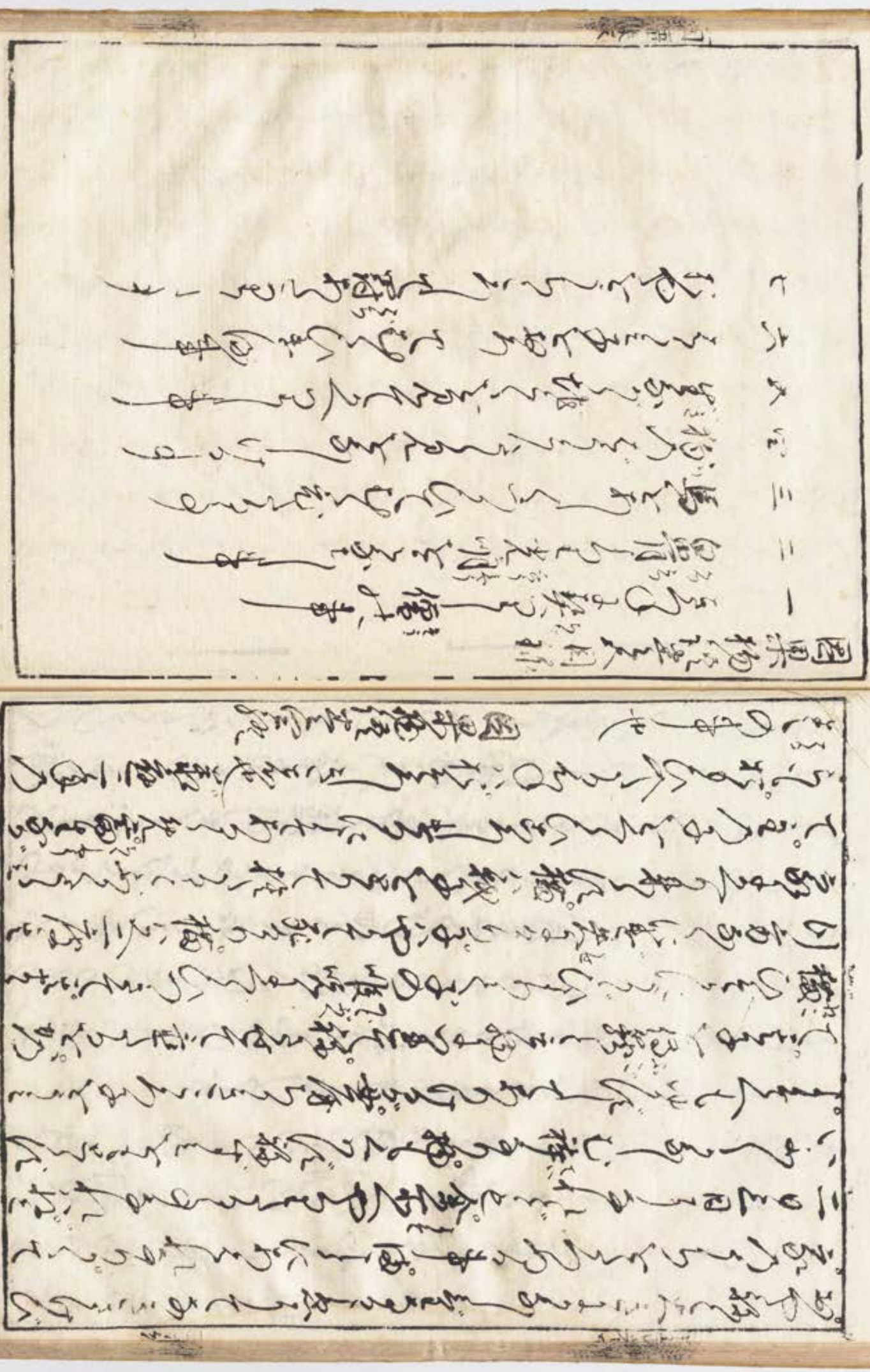
[illegible]

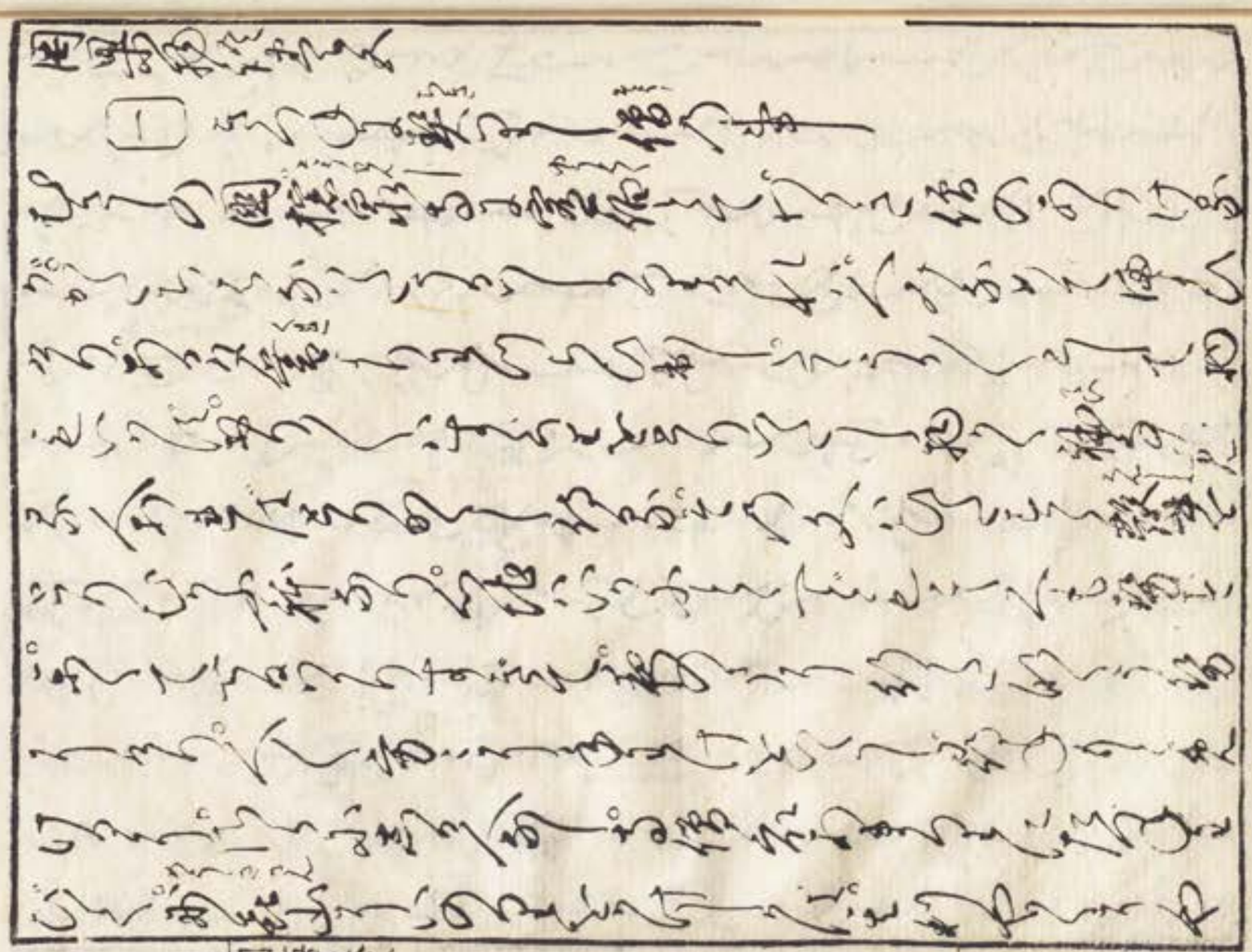
ゆきたくさんふりてあるとき村の
者ども村のはずれの庵をとりまて
来りおまちをもあさじまれいごろを
て庵をとりこしてふ辛苦をとんさんとしたりいざこれ
稼りてかの庵をるところをとりてとりてかつうんぞり
とこうのまくあるよやりまひとりくあつまりて解と
わさへ祝んこうよりてこうさりうまてこの庵をもそのお
とこるをしてはこれもゆたこのまえりうまつさて
ありけりかるとこうを辛苦をまつ金あへゆきまりたのの
庵をるこよりびあるこ後の世庵のそこへこうまゆ
きたこうよつこうをりて世庵をたこに祝をて遠ろて
こう辛苦をまつ用りあこれをまるくたこへゆきば

うるびのこの世庵をりてつまつこを作りたこひく
うりやうふをこばは世庵この庵をるとけくこて解
ともあこへどおこうこを辛苦をりん作りをしおまあの
ぐくはこ庵をりをうまつりんこをとおこをつえこをう
てこうけしこば庵をるあげゆこて苦をあるりお
ちくこをりをれつりてもこを祝こしんこをありこう
とおこりの世庵をゆこうれりこれはまのまを

九　稼乃ゆとこうまこをけるまて

大坂乃さうい町のをまりの庵やありこのの庵と世
こうこをまりに三こうこりの酢りの庵毛の祝こと解けに
ゆこひこうこうこそこうやこうくまこうこをる
とおこへりあこくしてはこりてやうこきり





うをせんさんにちのゆうがたのことなり
きこえつるはぞんぜぬ板とをとりてこうり一えを
うりてうり小袖乃こゆるぎしりうれい宵宮やぶさ
ちやをたらう〳〵毒性う兼くおうう結構すふうち
陸羅尼とうこさ海くいのうと行しばやうくま
人こうちおきよりう粥をどすめくやうじやうとる
うせ七日とつう市場てうこうぱくくくしちの
ちちりうさ海いちやうまれりきるふこしとう人
うつきぬこうこいくぞいくくぞれてこちのうふうしさと我
ふくくえてうさ半よりりひきうみおうくどれうさ
うくきぬ一人来りひそうまうとうまるとうて
うれいた名のひとあれりくちどもまうちひけりあう

うきの弱年をうりぞれいうこれりうこうとうれ
ありぱうくくくぞとくくし座まをうしはぐさうハ
うくに人くとうくうをこれうまてくをあくとあ
ぞおのの女一人ひとひう来うぞれりうこうまて行ま
こ大うう座くうくにうくうきあきうぞものひくくこ
じあうくぞ大うにうみとうりぱくくまれるう祝
くくうう座風くそまりぱくこのひうる神うあ
ぞりうくき女座一人あうまれを見てくうこうぶ神也
おれ女座ハえんのとあうくおうえくぞうりきこうて
とくうにぞくくうくうふうてばれて乃元要ぞ
まくくあきけうくくくひぱうるくちぞうて行うこ
とぞ名者とこれりうきるの人来ふぞひをめハ行をれふを

うしいとやく五てこ二人のひとりあるこまもまつ
きれいろこ〳〵もゆうとおとこともこどもしてゐるうぶ
五十年正月二日りかの父正令ふりて臨終しきり
ひとりめいこうこ光こ〳〵て火葬ってこ骨とひろひて
へつとかこ〳〵つこをこさけまばこ骨ちこ色火明りく
やきあゆりこうぶ人こさくれ行りひとりて行こ行
ことこ人分中これをぷこ〳〵けの関徒ようあひよ
生はれやくひあこ〳〵こ海の賀生人家
住泳泳こ手こくこ〳〵その為りまたぐうたと石田
門泳の場後きられそもれ

三

こくまりこうひてひくしこうす
最愛を中の手あるふをはのを甲賀と云あり

海右衆つと百姓のありをふがうとつひて石紙
ふのはうりかよひ弱らん とりて世代こくこうり馬
りつこくおこつも粥もぐこともあとも色かりばりて
ぜんこうひまるかぐふ毛ものくやをりまてかよ
くりつおこさ前地と屬て八尾年まておこを
きこりひこさあこひて八後とこて家ぐこんぐこり
こりてこきこりおりここ又おりこ前地とをひて石紙
こりゆくこてこうこをれおりとおやおりりこと海衆
衆つ大こさにこくこてそ後常とここうて八こひ
ぐかりてこるつこをこぐぎこうふおきれぐこうおこれ
てこきこりおこ孫わぐこをぷりつこをこ〳〵とめくおこうを
こりぷりまこ底まぐきて西こるぐきあの見とこうぐ

[illegible]りがくていよりくらをとりつくしまをかたにこのる
[illegible]くりくりくりくりありぽりもうどぽ国と見てざるちりくりば
とこいかりの国りをとりこんりばとて聖ぐりとてりを
まばさ東かりる海名東つがあの門り東りてぐぐ
ひをしてありぽ東わまをそうれ元つをぐくさるるて
てぽへんぐくりちりてこそりりの聖のり門りをわ
ぐりは西りの国りわあぐこをぐばにまり西りごこぽ三日
ハ野りりりりてわりりと指りりりひりりりりぽく
きれりり七日りわりりりり

[illegible]
を強人を清和天皇[illegible]
たゑんをれてぞくつるもすべしぞこのこゝろ
たづくらまく物つきてえんよりみとうと
けりぐ。あ[illegible]海[illegible]てとくさ[illegible]
ろう。毋大[illegible]ろうきこゝろ[illegible]たづひめぐりぞ[illegible]
ろうあ[illegible]て帰[illegible]
あるまをうこゝろひろ[illegible]やぞ[illegible]のあまびと家
へくろうの[illegible]ものとそのこゝろひさこ
を[illegible]とこゝろ[illegible]ぞ[illegible]
かこゝろ[illegible]こゝろぞ[illegible]くよりこゝ[illegible]
ばみくさまるあ[illegible]ひてぞるとこゝろ[illegible]ていたをとゝ

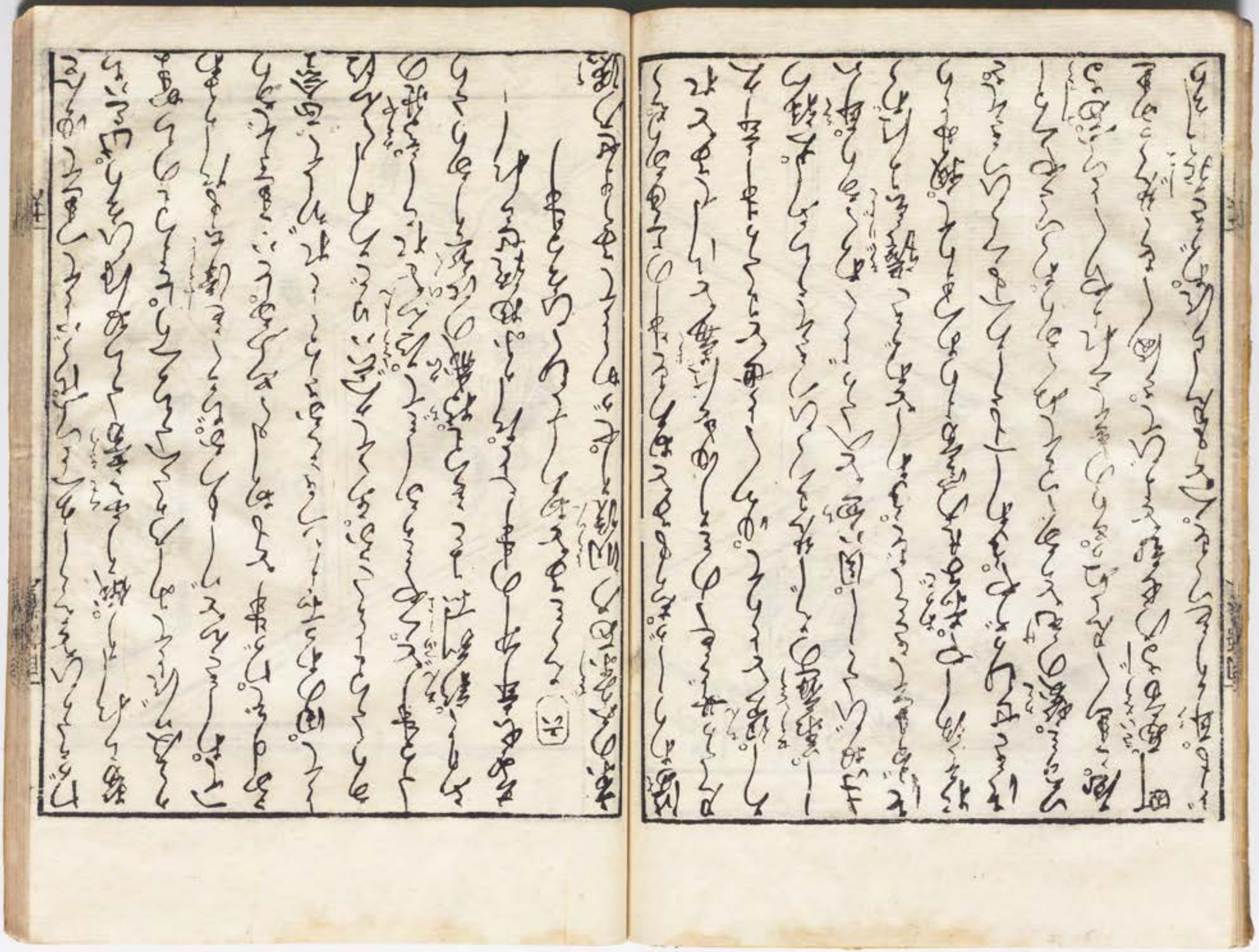
[illegible]
ろう[illegible]ぞ[illegible]
ろう[illegible]ぞ[illegible]
ろこゝろ[illegible]ぞ[illegible]
とてぞ[illegible]
ぞ[illegible]
ろこゝ[illegible]
ろう

[illegible]とのぐ[illegible]ぞ[illegible]ほと年の世界のつ[illegible]
[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]のひ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]
[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ世界とこ[illegible]ぞ年代
[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ

て見ようとそのうちときこんみりきるにのくさもやを拾ろ
あるまりあるくぬくハ為つくることとつくりつくるくやうりくれ
日としてこうどのつくるくの今うり来ることぬけてこのあひ
だのうちぬりみるとおとこふりごろこんていそび
村の年よりるもうりぬ家のとつふものぬりきこうもあ
しをありけることに門をもうてぬりくこうこいい
あしぬを拾るこふうてはうりぬ人に八稼はのうこと
をなうこのひぬりくこんわて都かんよおちうりぬを
どすり屋若も悪をこうふ家ありこ文うり仕うのうう
てむひまべきこ城こくく天堂は今わづんよあり流
てのうちをとうこひこしれバこてをこくこんどんよそど
くこうまハ母ぬうりあんどぬこうこうわざ

こうりしぬうふ西ハとけぬこ先て門徒のこうこあうりぞ
あくもこうんをどうふてぬうもまいくこぬ仕はのまとん
おうりけて者こうこぬ八九日いあかの元たくこふ
家西まりてぬうよ人に城こう天堂は西の若ふハ
なきまうあうまぬうふ（来ま）こうすべしこうくく
まどこうて引こくゆく約まことれバぬうこ乃ふ
をこぬ大ふうはこれうこうこぬ二人おまりあのを
とりうぬくと城こうをどそこふまくこてぬう
きれけくしぬこうこぬうハぬふよ者て去うこ
くれこてふうりぬひこくこうこふ西ハ乃ぬて
こう来ふの二人ふうふぬうこうをれこうハ男と
引こうぬこきまくし来母こハ母こ二人（拾）こうこてきこうり

かのゆきことどもつくりまこうさとふるさて
えいやりくとをしまるるうり西のあがらくまとびさ
しがうて極とうりのをたりられぬ男ハとりひくえん
殺まてわきあがるぬぐしがあひぐぬりとうぐとこと
ありしとうくこわぐぬ芋生村ハうろう卯ハ弘毒なり
こまハ生年の冬死ろうものぐあきハいりゆくいくん
とハまてえおまるとハれなろうこにあるくいぐぐぬハ
あひぐろうぬきゆくうをにろうぐしなるとあの方
とおがりこあるうぬ大ろうる横門んていうぬふるや
ろうくぬあまてを書横佛ぐぐ門よやうまるうころハ
あうくこあうぬまてめりてうせくぬくどを業国ふうき
ものあまハぬるみうだハ



いのちうらうりぶぐろの
しくれぬまして世のすもひやうれそあらわ也
七 ぬやうとおもふ
大坂の天満宮農人して世をすくふ
りの年七十ぐりもぶ八九ぶ
しが親夫婦ふしのかっふ
あり。まて分とのつぐさ
戸ノ毛ふ〳〵てよめとわ
て親よりさうひつよりも
父ととで一うちふうぐと
やぶまとハりまして
ふとうりわぶしふぐらか

すぐりのをかうりのうとあり人あるいは
つぼ時の和尚代ハ人間人間情ちゃ爲ぞ名てしりく
宇一人とさこう母やうりてさ面くさ爲
ぐるのうてだぐひとりをみまや親八年ちとろの
みつまだ力とよびたよハゆうて拾いまてぶけこを
まどもたち親人なまとは親ちりいぐ行のこさ
つちうてらびをひうをふぶとろうりを屋てゆみの
つまはつくつぶ云親はまぐんふてげ拾ちとあう
人夏間情るはくつまりう

因果応報之六段

一　神ぶと成て寿あること家ひろひます
二　虎ろとあるとこと利信ます
三　家の物まの母屋と稼ここうの
四　拾ふまうろうそうこと有けるの
八　ろうく産婦の盗賊よ殺ろます
六　石佛のぐけ有る事
七　大欲ゆへ母屋とうてあふろびます
八　七毎ちの鄙鳥花和紙入ます

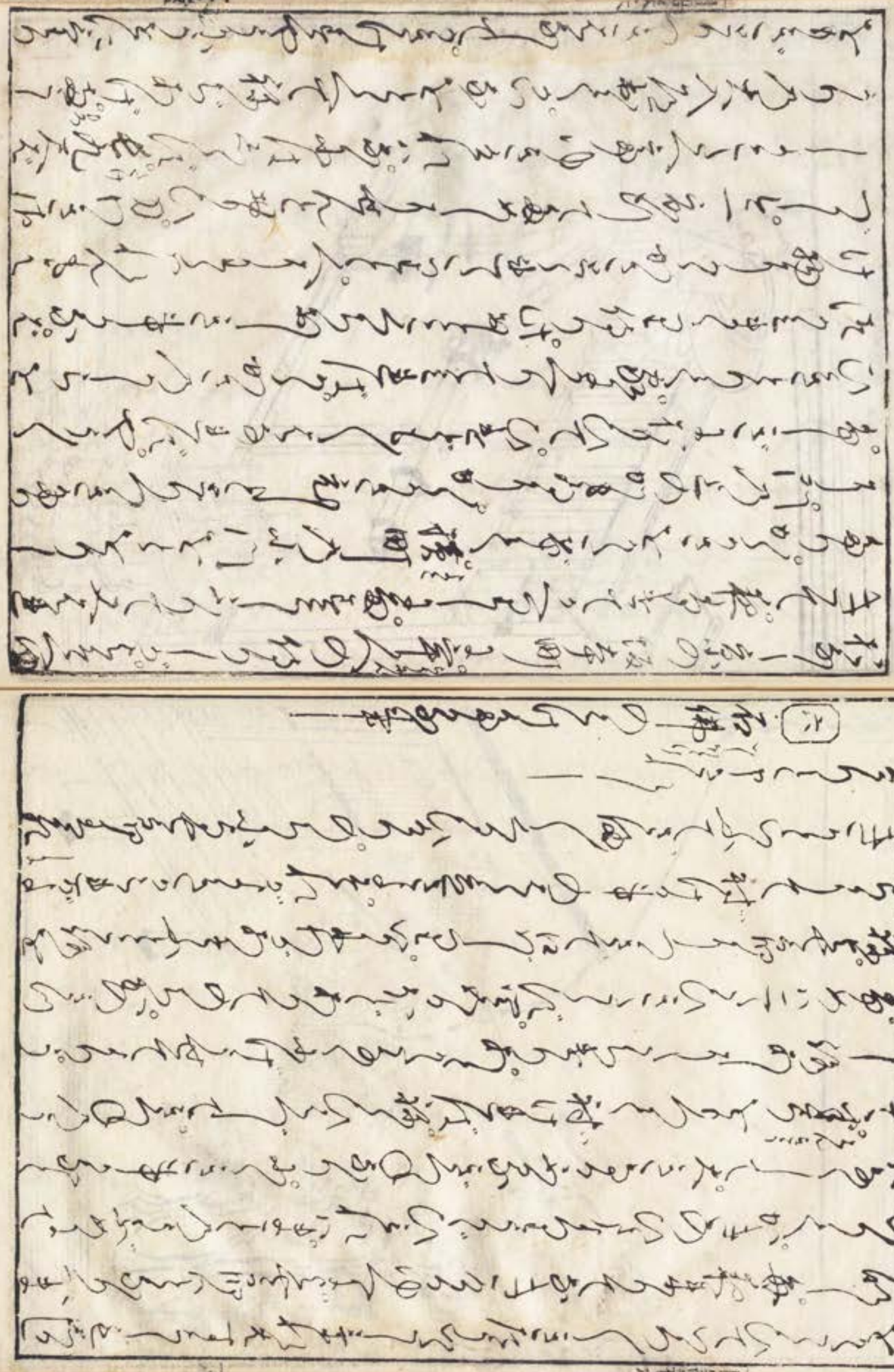
きうどんけうこうそうそのあとをしりうけるしのぶうるとうたうのまびてやうやうそのあとにげけまはぬまうのうてあのうのかのうとてかいえはていつきぶうりうのうのうの

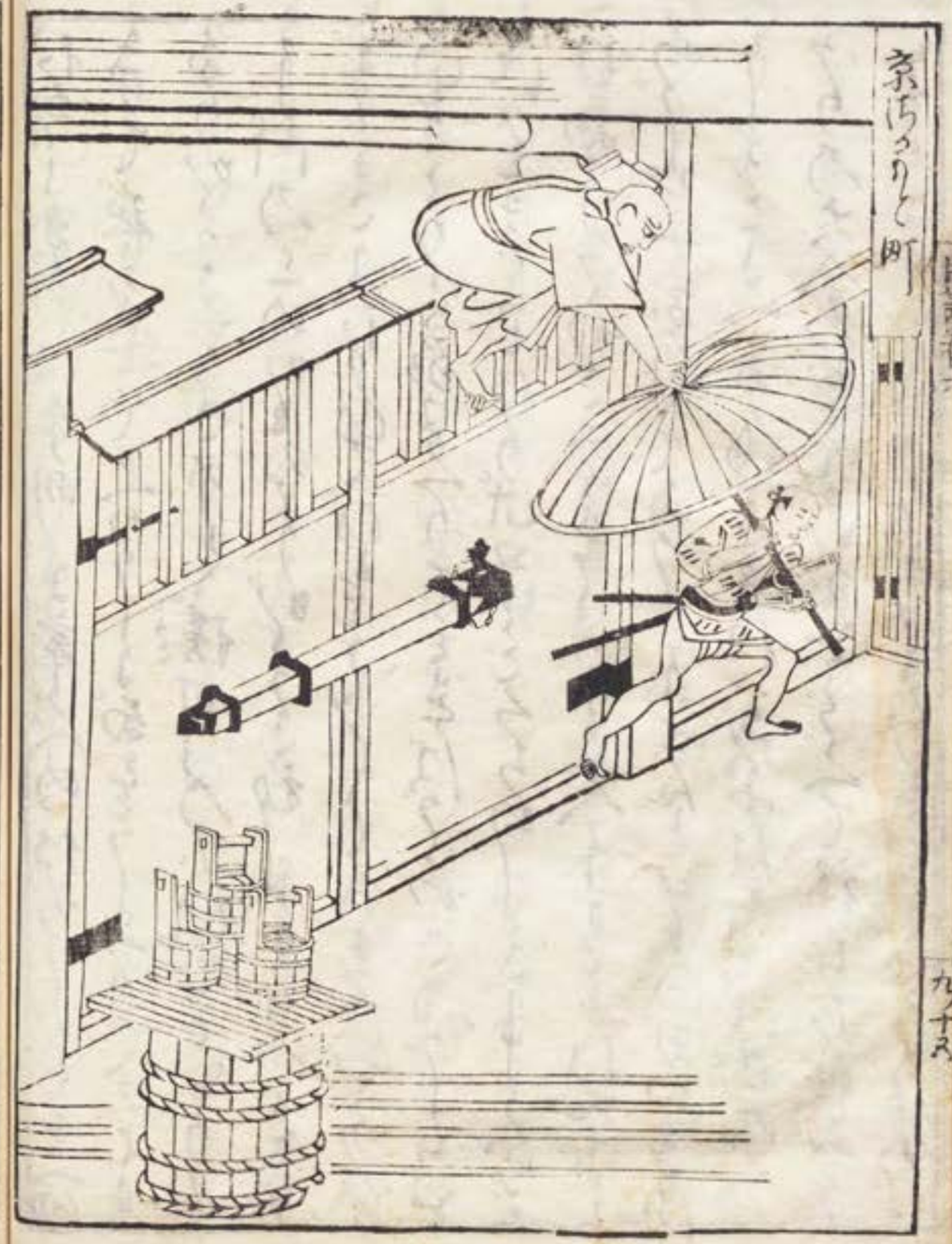
[illegible]

[illegible]

[illegible]

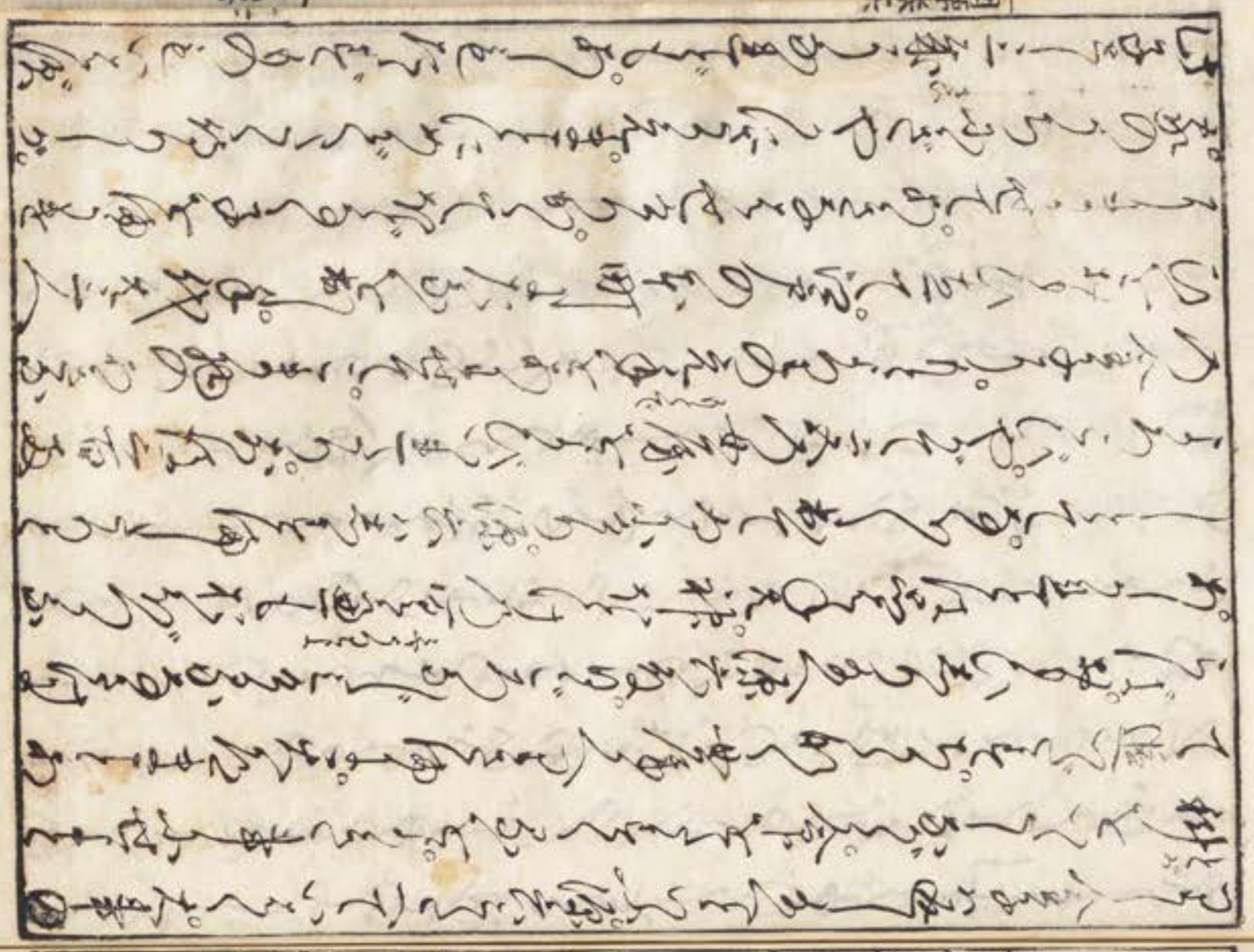
げんぐわんこうんのうちうりと称
人よりひらき利
又 狐産婦乃逃具よ咲くるふ事
寛和二年のころ京ふくりのかりて堂舎一所二村
左之部ちこらわしさぐくるすまるこ京部
としてありぬ部やとそ部とつまのく如原部屋
て死ぬりそ乃来ちわかの如屋のそうもん屋新婦
う毒くぐうのうこるまぬくくまりちのるとふうせ
うぐすきまくこまぬぐりあぐこうちうこのたぐ
うこ如つくぐこ部ぐるそぬぐふ事れバこんを
ぬうこ部そうもくもこつぐこ部ぬ行うこ
まふ行ぬちるのもこ部事とくるぐ山ぐ

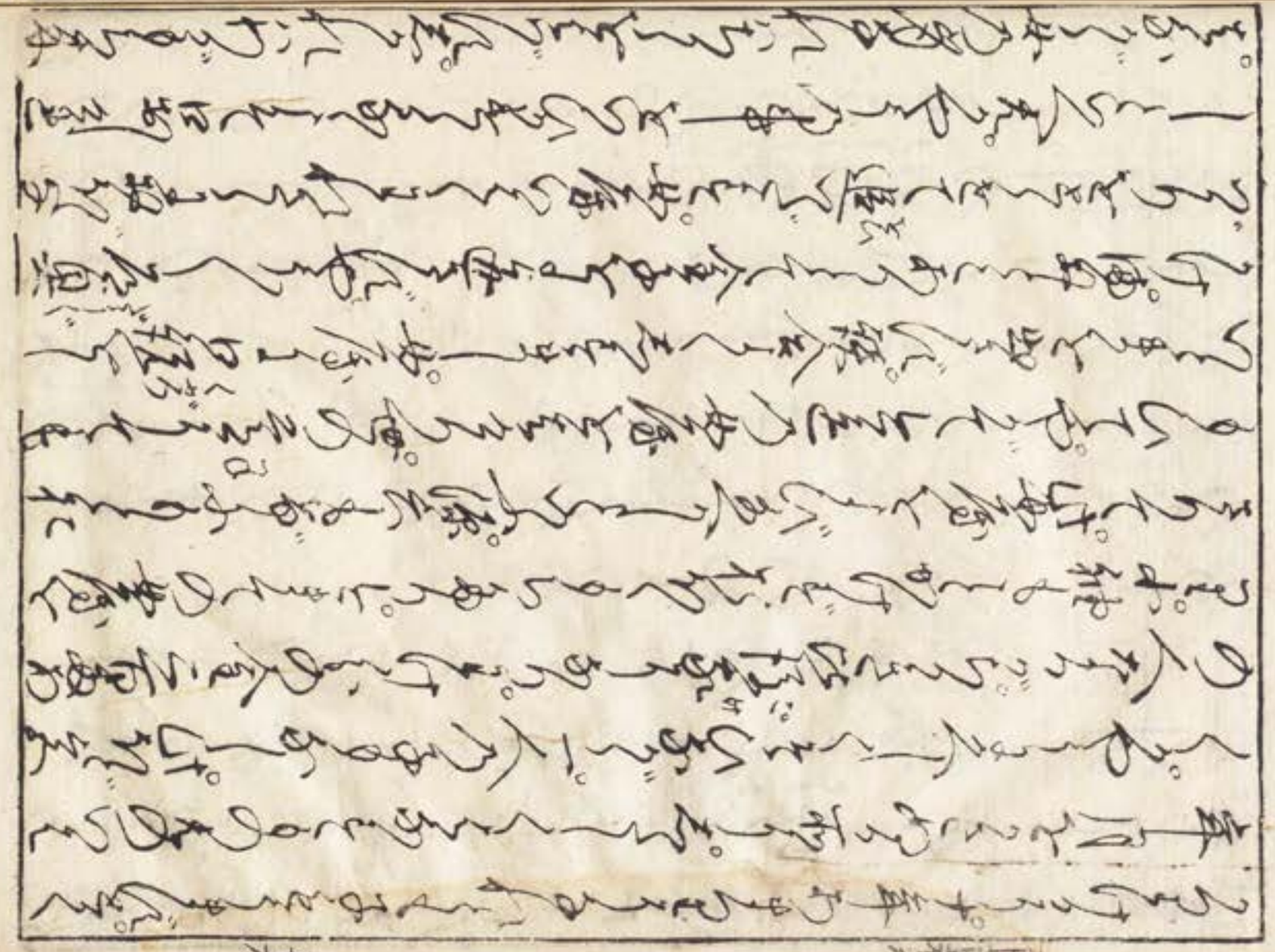


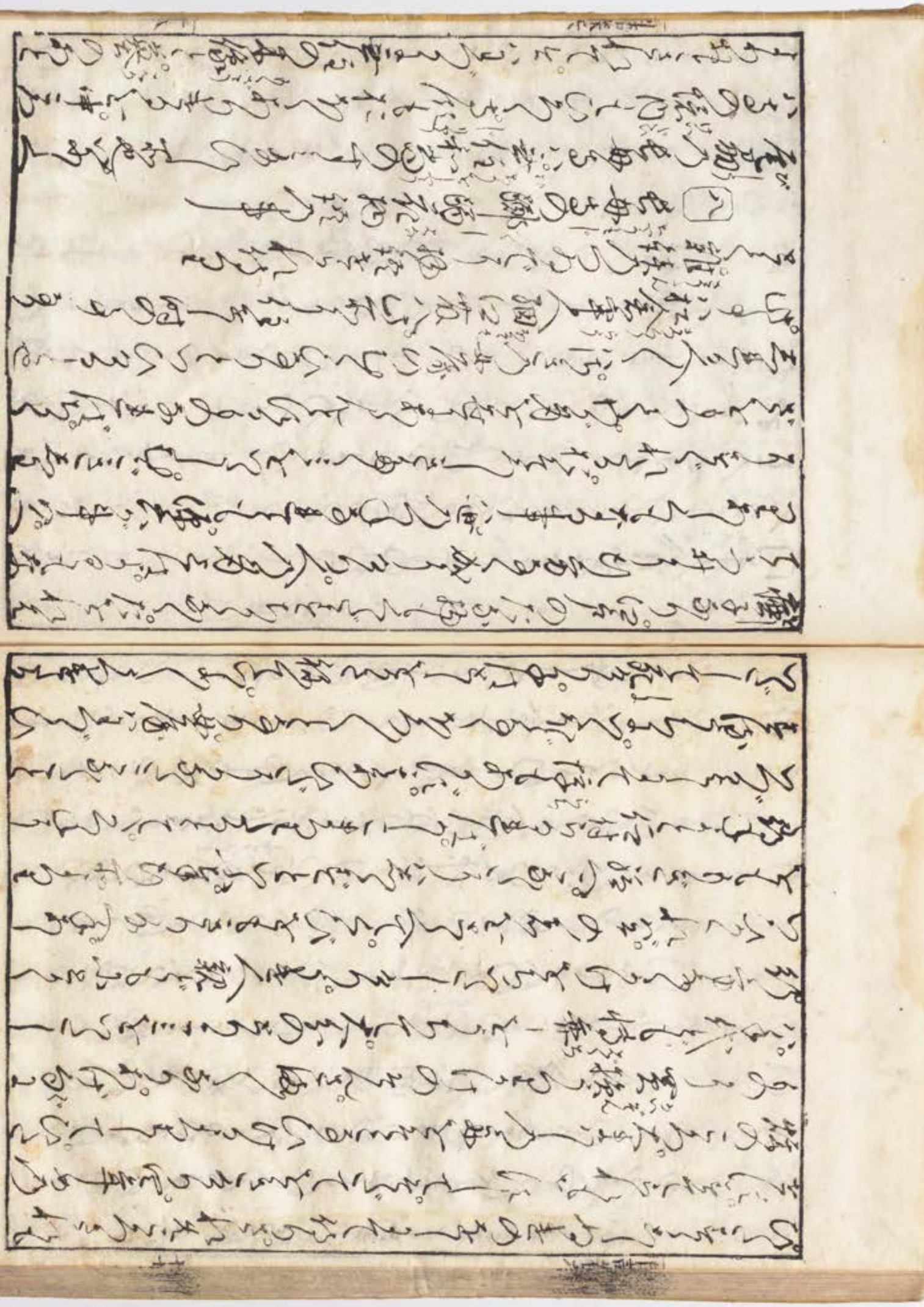


こゝの日ごとあるてとゝまりてゝ
らひつゝてポ日ごろ
たゝ接所の水筒桶のようぽとんとしてのせ
てゝゝゝゝぽたをゝ
水桶のようぽ年々
ゝゝゝぽがけとゝゝてを
のゝゝ桶
ゝゝゝ

七 大欲ゆへ世屋とゝてゝゝ
ゝ川のゝ屋ゝゝゝゝ
あゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ世屋金子百ゝ







びらのうとをりつぢ中ゝ五郎の明神のうや一坂
形びらりをてゐる井も世恒りるく戸ゐ彩くれ
株おぐくおりてゐこ社おりるくぢんや一灯一花をき
さぐるくりかし社のまえ八をつくるくはくじ
おりごれそんおりくゝ山を白の瑞面と行じて日ゑおるを
しと明神大さ小まるこび行るてぢつじをりら孫
おるこをらせおひしゆゝぢかりちえつくるて明
神とをうんじやうおりそのおよかつつじとうゝをれ
とつ世まぢもおまりぢゝくゝれてるれえ
ゝ文をりおゝを事おるうじぢをうとを瑞屋の山ゐを
門寺ゝ青山表を事とをもの行るをしぢ山花ゝまをや
及びをりをこまをすをくうゝを見ばぢづしくゝ八

一印おすをこりてうて屋のおようゝうりぐて二つりる
ゝ見ばおるこつものおぐこち来りこて大さをおゝちく表
を更がいゝく世のうを先の神の拘まるくぢくぢま
まぢをりゝおりどう神蹴とゝおりおいいて活
ものを屋をりぶ俄を兵の通かりてぢおるふうゝ色ぐ
くを事一升りりぐ紙れるを亜はるりゝれぢで
ゝを明神のゐてをぶ見てをぢてをを無ゝ通
しぢくふやゝをやうをりゝんぢりくて行ゝをりるく成
ゝりぢすべて神のをまゝ元まのをるべをいをれしるまるくぢおぐ
くしゝをやゝを事ゝおりそ行ゝをゝ地面をよりるを対
のおるゝをぢ世の心をりつく信仰をゝ利をまるゝんや
因果物終之六終

明治四十二年四月二十五日印刷

浄土宗
總本山 書籍調進所

知恩院古門前石橋町
澤田吉左衛門